

回復期の高次脳機能障害患者に対する看護実践において熟練看護師が感じる倫理的問題

著者	春木 邦恵
発行年	2017-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10422/00012333

氏 名 春木 邦恵

学 位 の 種 類 修士（看護学）

学 位 記 番 号 修士第228号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第3条第1項

学 位 授 与 年 月 日 平成29年 9月20日

学 位 論 文 題 目 回復期の高次脳機能障害患者に対する看護実践において
熟練看護師が感じる倫理的問題

審 査 委 員 主査 教授 伊藤 美樹子

副査 教授 喜多 伸幸

副査 講師 坂東 春美

論文内容要旨

*整理番号	228	(ふりがな) 氏名	はるき くにえ 春木 邦恵
修士論文題目	回復期の高次脳機能障害患者に対する看護実践において熟練看護師が感じる倫理的問題		
<p>【研究目的】社会的行動障害をもつ高次脳機能障害患者への看護にはしばしば倫理的問題をはらむ。したがって、回復期の高次脳機能障害患者に対する看護実践において熟練看護師が感じる倫理的問題を明らかにし高次脳機能障害患者の倫理的実践を充実する方略を考察した。</p> <p>【方法】近畿圏内の回復期病棟の看護に 3 年以上勤務し、かつ看護倫理の問題について認知・説明できる 3 年以上の実践経験のある看護師を熟練看護師とし、研究対象とした。調査方法は、半構成的面接による質的記述的調査とした。分析方法は、面接結果から逐語録を作成し、倫理的問題に関する内容を抽出し、コード化、カテゴリー化を行った。真実性・信憑性については、メンバーチェックングを行い、質的研究の経験者によるスーパーバイズを受けた。</p> <p>【結果】近畿圏内の 4 つの施設より 10 名の看護師より研究の承諾を受け、面接調査を行った。高次脳機能障害患者に対する熟練看護師が感じる倫理的問題として、14 のサブカテゴリーと、6 つのカテゴリーが生成された。カテゴリーは「看護師としての感情コントロールの欠如」「自分本位な対応」「業務優先的なケア」「患者の気持ち不在の安全管理」「人間としての存在の軽視」「プライバシーの無視」であった。また同時に、尊厳を守るための行動も抽出されたため、分析を行った。その結果、10 個のサブカテゴリーと 4 つのカテゴリーが生成された。カテゴリーは「患者の理解」「地道なケア」「冷静な対応」「落ち着ける環境の整備」であった。</p> <p>【考察】高次脳機能障害患者の状況を理解していても、看護師自身の感情コントロールができず、自分本位な行動になって、業務を優先してしまうことや、行動制限や監視を安全確保と容認しながらも、罪悪感をもち、倫理的問題ととらえていた。しかし、それらの倫理的問題に対して、看護師は、患者の病状や必要なケアの理解や地道なケア等が患者にとって必要であるとも認識していた。倫理的問題を自分に対する自責としてとらえていたことが特徴であった。このような状況に管理者は、看護師の心理的なサポートシステムも含めた組織全体の倫理カンファレンスの推進や、看護師だけでなく医師・セラピスト・コメディカル・事務局など他職種とともに協働で解決していくことをすすめることの必要性が考えられた。</p> <p>【総括】高次脳機能障害患者に対する熟練看護師が感じる倫理的問題は、高次脳機能障害患者の症状に対応しきれずおこる内容が多く、自分にむける自責の思いとして語られたことが特徴であった。看護管理者は、看護師のメンタルサポートのシステムの整備や、よりいっそう他職種と協働でケアに取り組んでいけるシステム構築をすすめることが重要である。これにより高次脳機能障害患者に対する質の高い倫理的実践に近づけることが示唆された。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200 字程度)